



渡辺 豊博さん



写真が動くよ! スマホをかざしてね

東京農工大農学部卒。静岡県庁に入庁し、農業基盤整備事業などを担当。2008年、都留文科大(山梨県都留市)社会学科教授。富士山学や市民活動論などを教える。静岡県三島市出身。64歳。長野市の信州松代ロイヤルホテルで。

「世界の宝」守る危機感を

都留文科大学で「富士山学」を開講

富士山にはこれまで73回登りました。約50年前の中学2年の夏休みに、友人と2人で登ったのが初めてです。その時の体験が、富士山の湧き水に恵まれた静岡県三島市の環境保全に取り組みNPO法人グラウンドワーク三島や、富士山の環境改善を目的としたNPOを立ち上げた根底にあります。

初めての富士山は、静岡県沼津市の千本浜で20リットルのポリタンクに塩水を入れて、標高0.5メートルから出発しました。10日間、ひたすら歩いて山頂から塩水をばらまきました。富士山に降った雨が長い年月をかけ海へ行く。「水の都」と称される三島市は上流に山や森があるから成り立つ。頂上から水をまくことで、そうした流れを感じてみたかったのです。環境保全は富士山圏域として考える必要があります。

当初は、富士山5合目まで車で行く有料道路「富士スバルライン」が開通する直前でした。頂上を目指して道

富士山は昨年6月、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界文化遺産に登録されました。背景には、豊かな自然に加えて富士山信仰に対する過去の評価があります。しかし今、富士山の本質は忘れられ、ただ単に登ればいい

という「一点集中型」の観光地に成り下がってしまいました。美しい富士山を守ろうと1998年に「富士山クラブ」を設立して、現在はNPO法人です。山小屋のトイレのし尿問題を解決するため、山頂などに

バイオトイレを設置してきました。現在は42の山小屋に計49カ所のバイオトイレがあります。ただ、それは年間25万人に対応できる容量です。10年前はそれで良かったけれど、今は31万人が訪れている。6万人のオーバーユース

(過剰利用)になっています。富士山が世界文化遺産に登録された際、(ユネスコ諮問機関の)国際記念物遺跡会議(イコモス)は、今後の環境保全の取り組みをまとめた報告書を発表した。2016年2月までに提出するよう求

めました。納得できる解決策を提示できなければ、登録抹消もあり得ると思っています。日本の宝にとどまらず世界の宝を守るために、私たちはもっと危機感を持たなければいけません。あえて言うと、「今は富士山に来ないでいただきたい」とお願いしたいのです。問題となっている環境悪化は、増え続ける登山者によるオーバーユースが主な原因だからです。少なくとも2年間は富士山を遠くから見守ってもらい、その間に、富士山信仰などを学ぶ「富士山学習」をしてほしいのです。富士山が世界文化遺産に登録された意味や意義を、あらためて考えてもらいたいのです。

ゴミ問題やし尿問題は富士山に限った話ではなく、各地の山や里山で起きています。環境問題の「総合レポート」とも言える富士山が変われば、日本が変わる。そう思っています。